

愛国心の高揚

第5特科隊教育隊

30. 5. 25

教 育 内 容

- 1 東日本大震災における日本人の言動等
- 2 発達心理学から見た日本人の特性
- 3 日本人論から見た日本人の特性
- 4 宗教から見た日本人の特性

1 東日本大震災における日本人の言動等

(1) 東日本大震災の特徴（想定外）

	宮城県沖地震（政府計画あり）	東日本大震災（計画なし）
地震規模	M 8. 0（宮城県沖） 津波高：主に5m以下、一部10m	M 9. 0（震源域：岩手～茨城450km） 震度6強：4県38市町村※エネルギー32倍 津波高： 10m以上 、最大遡上高： 40m
被害想定	◇死者 震災約200、津波等約2000 ◇避難者数：約10万 ◇全壊・半壊建物：約6万	◇死者・行方不明者： 約 1. 9 万 死者1.6万、内水死1.2万－92% ◇避難者数： 47万 （3.14 ピーク時） ◇全壊・半壊建物： 約39万 ◇福島原発 メルトダウン

(2) 発災当初、混乱の中での日本人の言動

◇被災地から40時間ぶりに救出された80歳過ぎであろう男性。笑顔で「大丈夫！大丈夫！津波も体験してるし、再建しましょう！」と。悲しみの声を聞き出そうと食い下がる記者に「そんなこと言っても仕方ないでしょ」と笑顔。

隣にいたご婦人も「みっともない格好撮らないで」と。日本を築いてきた方達は凛々しい。 (@arrowbridge)

既読

◇避難所で、4人家族なのに「分け合って食べます」と3つしかおにぎりをもらわない人を見た。凍えるほど寒いのに、毛布を譲り合う人を見た。きちんと一列に並んで、順番を守って物資を受け取る姿に、日本人の誇りを見た。 (@soleilflevue)

既読

◇一回の青信号で1台しか前に進めないなんてザラだったけど、誰もが譲り合い、穏やかに運転している姿に感動した。10時間の間、お礼以外で、クラクションの音を耳にしなかった。日本がますます好きになった。 (@micakom)

既読

◇今朝の朝礼で「何があっても決して不安な顔を見せずに、売り場に立つ以上はおもてなしをする気持ちを忘れずに、お客様を安心させてあげてください」
ちょっと感動した。がんばるか。開店です！ (@kyoheimai)

既読

◇ある駅近くのコンビニが停電の中、自家発電で営業していた。レジに長蛇の列が出来ている最中、燃料が切れたのかレジが動かなくなった。真っ暗な店内。皆手に持った商品を棚に戻して店を出ていた。そのまま持って出ても誰も分からない状況だったけど。 (@tod0)

既読

◇東日本大震災発生から4か月間に岩手、宮城、福島3県の被災地で、警察に回収されたり、「拾得物」として届けられたりした金庫は5700個で、中にあった現金は23億6700万円に上ることが15日、警察のまとめでわかった。このうち96%にあたる22億7000万円は所有者に返された。(YUMIURI ONLINE 2011.8.16.0608)

既読

◇募金箱の前にて幼稚園くらいの男の子と母親の会話

母「貯めていたのに本当にいいの？」子「3DS我慢する。これで地震の人の家建てる」と言い、お年玉袋を出し5千円札を大切に募金箱に入れた。

母「偉いね。地震の人たちこれで家買えるね」お母さんの言葉に、子供は思わず泣き出しました。後ろにいた私も泣いていました。 (@mushi2000)

既読

◇長男小4が自分の財布と貯金箱の中身を全部募金したいと号泣しながら差し出してきた。コロコロミク買えなくてもいいから。日本まもりたいから！って。 (@mondenakik)

既読

◇ババ先に若いお兄さんたちが軍団でお酒を買いに来ただけど、その中の一人が「やべえ、お酒のためにしかお金持ってきてないから募金できん。ちょっとこれ買うのやめるわ」って言って商品返品してそのお金全部募金してた。お友達も続々と募金してすごい感動した。すごいよ。 (@raai15)

既読

◇駅員さんに「昨日一生懸命電車走らせてくれてありがとう」って言うてる小さい子供達を見た。駅員さんは泣いていた。俺は号泣してた。 (@oka_0829)

既読

◇父が明日、福島原発の応援に派遣されます。半年後定年を迎える父が自ら志願したと聞き、涙が出そうになりました。「今の対応次第で原発の未来が変わる。使命感を持っていく」家では頼りなく感じる父ですが、私は今日ほど誇りに思ったことはありません。無事の帰宅を祈ります。 (@NamicoAoto)

既読

◇ぜんぜん眠っていないであろう旦那に、「大丈夫？無理しないで」とメールしたら、「自衛隊なめんなよ。今無理しないでいつ無理するんだ？言葉に気をつけろ」と返事が。彼らは刀だ。肉体も、精神も。 (@yoshimicov)

既読



◇ある自衛隊員が言った。「被災地で炊き出しをした際、たとえ余っても自衛隊員は絶対食べないで缶詰の冷たいご飯を食べます。被災地の人用にお風呂を用意しても自衛隊員は入りません。そして出来るすべての事をやったらひっそりと帰る。それが自衛隊です」自衛隊は日本の誇りです。 (@ma3hi60129)

既読

(3) 世界が驚いた日本の道德意識



元世界銀行副総裁 西水美恵子によると、発災後、東京に出張中の元部下が、国際電話で巨大地震が起きたことを知らせてくれた。彼女が涙声なのに気づいて、驚いたのを覚えている。途切れ途切れの通話も、震災や通話規制のせいではなかった。「今、帝国ホテルに向かって歩いている…ミコの同胞は素晴らしい…強い余震が来るなかで…誰もかれもが落ち着きはらって…まわりの人を思いやって…助け合っている…こんな民族が住む国がこの世にあったなんて…信じられない…ミコの国はすごい…」

しばらくたって、ワシントンに戻った彼女から、“日本から学ぶ10のこと”と題し、世銀やIMFはもとより世界中を駆け回っていると、1通のメールが転送された。



①	平 静	悲痛に胸を打つ姿や取り乱す姿など見当たらない。悲しみそのものが氣高い。
②	威 厳	水や食料を得るためにあるのは、秩序正しい行列のみ。 乱暴な言葉や、無作法な動作など、ひとつとてない。
③	能 力	例えば、驚くべき建築家たち。ビルは揺れたが、崩れなかった。
④	品 格	人々は、皆が何かを買えるようにと、自分に必要な物だけを買った。
⑤	秩 序	店舗では、略奪は起こらない。無警備のATM（現金自動受払機）は、そのまま。 路上では、追い越し車も警笛を鳴らす車もない。思慮分別のみがある。
⑥	犠 牲	50人の作業員が、原子炉に海水をかけるために留まった。彼らに報いることなどできようか。
⑦	優しさ	レストランは、値を下げる。強者は弱者を介助する。
⑧	訓 練	老人も子供も、全ての人が何をすべきかを知っていた。すべきことをした。
⑨	報 道	崇高な節度を保つ速報。愚かな記者やキャスターなどいない。そして、平静な声のみがある。
⑩	良 心	停電の時、レジに並んでいた人々は、品物を棚に戻して静かに店を出た。

2 発達心理学から見た日本人の特性

(1) 鎖国の国（日）と開拓の国（米）の文化的差異

ア 日本とアメリカの文化的差異は極めて大きい。16世紀後半から19世紀末にかけて、アメリカは開拓時代で社会的流動性の高く、身分や役割が極めて**流動的な共和国**として誕生した。日本は江戸の鎖国時代で社会的流動性が制約され、強い中央政権が全国に対し統制力を持ち、世襲的な身分役割体系による官僚統治が行われ、外に対しては**極めて閉鎖的**であった。日米はその時代の両極といえるほど対照的であった。

イ アメリカでは、積極的に自分を主張し能力を発揮することが望ましく、人との調和には重きを置く必要はない。“人と同じ”ということは怠惰（たいだ）ですらある。日本では、地域社会に代々結ばれて、勝手に職業や住所を移すことはできなかった。このような組織の中では、誰かが得をすれば誰かがその分損をするというゼロサム原理が働くので、突出を抑制し、**横並びを心掛けるのは必要なこと**である。江戸時代は、武士と農民と商工業者の3つの身分によって構成された社会が成立し、この中で、個人が担当する**役割と責任がある“役”の体系として社会が組織され、それを忠実に果たしていくことが正しいこととされた。**

(2) 受容的勤勉性（日）と自主的選好性（米）の差異

ア 日米の5歳児に対して、直径4cmの円を「できるだけゆっくり」と伝えられ、描く「円描きテスト」を行った。どれだけ時間をかけることができたかが得点となる。結果、日本の子供は平均16.5秒、アメリカの子供は短く11.5秒であった。

日常の観察を加えると、**日本**は、与えられた課題を受け取って勤勉にやるという「**受容的勤勉性**」が、アメリカは、自分で納得して選んで、そのことに力を傾けるという「自主的選好性」に特徴づけられる。

アメリカの社会では、お仕着せを嫌う。自分の意志で選ぶべきであり、選んだことは自分で責任を持つべきだという倫理が支配的である。「言われたとおり」とか「皆と同じ」というのは、責任放棄をみなされる。アメリカの母親は子供に対して、「どうしたい？」「何が好き？」「どっちにする？」と選択を要求するものである。

イ 日本の学校では、与えられた課目を好き嫌い言わず受け止め、クラスの皆が同じことを習うのが当然である。アメリカの学校では、個人の自発性や独自性を活かさない子供が乗ってこない。子供が登校すると受け持ちの先生を囲んで円陣を作る。一人一人がどのセンターで勉強したいかを発表し、先生の助言を受けながら、その日その日の時間割を作る。そのあと学級も学年もばらばらという学校もあるくらいである。

(3) 日本人の人間の類型

ア 役割社会

日本の社会は欧米に比し役割社会的な傾向が強い。

役割社会 (日 本)	◇社会が役割体系として組織。人が役割によって定義される。 ◇物事が“こういうものだ” “こうするものだ” と成員の常識によってあらかじめ決められ、個人的な解釈は現れにくい。(ムラ社会) ※ ◇個人が役割で呼ばれる。結婚後“あなた”、出産後“お父さん”、会社では“部長” “専務”、社長になるとめったに個人名は呼ばれない。
個人社会 (アメリカ)	◇社会は独立した個人の集まりである。 ◇いちいち個人の責任で意思決定をして行動しなければならない。 “なぜ” “どうして” ということに対し論理性、明確性が要求される。 ◇軍隊を除き、役職で呼ばれるのは大統領ぐらい。

※会津藩 “仕の掟” 最後の一節：ならぬことはならぬものです

イ 人間の類型

日本人は、完全な個人には不安定さを感じ、何かの役割に自分を位置付けないと落ち着かない。積極的に選択し役割を修得し、役割をよく果たそうとする。日本人のこの**役割への執着と忠実さ**は、心理学者、社会学者、文化人類学者などがひとつの**文化的伝統**としている。

習俗的役割人間	習俗化した社会規範に従い役割を把握、その遂行に満足を見出す。
自発的役割人間	◇自らの状況規定により役割を取得し、その遂行に満足を見出す。 ◇戦時下の国家的要請等、新たな状況に積極的に対応するタイプ（ 自己犠牲の精神 ） ◇結果の成否を重視する達成型と過程の努力を重視する過程型に分類し、外的状況の圧力が圧倒的なとき、過程型となる。

“**これがつとめだ**”と認識したならば、“それがどれだけ役に立つか”“**全体目標にどんな意味があるか**”などはあまり問わないで、当面の課題を完璧に遂行しようとするのが、受容的勤勉性であり、**自発的役割人間・過程型**の行動様式である。

ウ 原因帰属の日米比較

小学校上級生の母・子に対し、子供の成績が上がらない原因を調査したところ、アメリカは“能力”要因が比較的多く、日本は“努力”要因の傾向が際立った。

日本では、理不尽に見える状況のもとでもとにかく文句を言わず、辛抱して努力することは美德とみなされ共感を呼ぶ。

エ 国語教科書から見る価値観の日米比較

日 本	◇教科書に多いテーマ：温かい人間関係、きまり・躰、自己犠牲の精神 ◇日本の社会が期待する“いい子”像は、素直、従順、きちんとしている、辛抱強い等で大人にとって扱いやすい子
アメリカ	◇教科書に多いテーマ：公正・自由・平等、自立心、自己主張、強い意志

日本の母親（教師）は、権威関係（親の命令）ではなく、なじみ会って共生関係を維持しようとするため、親の願いや価値観が子供にしみ込み、子供はその“いい子”像に合わせて自分をコントロールするようになる。この役割を取得し、満足を見出すことが、自発的役割人間を形成する。

(4) 気持ち主義

一例として、日本人は、相手が断らなければならないかもしれないような頼み事は、自己規制する。相手も気まずい思いをするだろうと“先回り”して、その可能性があるならば止める傾向がある。一方、頼まれた側は、相手も気持ちを讀んだ上でのことと考え、よほど切実なのだろう。よほど信頼しているのだろうと思い、断れなくなる。するとまた、安易に頼めなくなるというふうに気持ちの読み合いが循環拡大する。

相互依存的な役割社会では人間関係を円滑にするため、**理を通すよりもまず人の気持ちを理解すること（思いやり）が大切**である。気持ちが通じ合うことで連帯感が強まり、引き受けた役割に関する受容的勤勉性が高まる。

他人に迷惑をかけない、又は、嫌な気持ちにさせないため、**感情表現を抑制**する。

(5) 日本人の道德意識

ア 道德的判断をするために必要とする情報の日米比較

けがをさせた、かこつた等よくない行為について善悪を判断する際の情報

日 本	その人の性格、行為をしたときの気持ち、今どういう気持ちか
アメリカ	その人の年齢、どのような被害か、前にもやったか

日本：道德的判断 アメリカ：客観的判断

イ 道徳的判断の日米比較

日本人の方が、行為者に対して甘い判断を下す傾向があった。情報がなければ、その情報の空きを、何か同情できる事情があったのだらうと察して、プラスの仮説的な情報で埋め、これを織り込んだ判断をする。

日本人はトラブルにあった際、まず対立を避け、避けられなかったらできるだけ対立を表立たせないようにする。悪気はなかったと思ってみる。一方、責めるべきでない者を責めてしまう“誤った告発”は、必要以上の対立を招くと考える。

【①自らの役割を取得した例として】

プロゴルファーの石川遼選手は、マスターズの公式記者会見において、東日本大震災に際し、獲得賞金を全額寄付することについて、

◇スポンサーに支えられ、ここまでこられました。今まで恵まれてきたので、**今度は恩返しをする番**だ。長い期間をかけて支援したい。

◇被災地では食料がないのに何百人が何時間も列を作って順番を待ちます。日本には、**冷静で他人を思いやる気持ち**を持っている人たちがいます。私は**日本人であることを誇り**に思います。

◇被災地と**つながっている思い**を持てば100%の力でプレーできる。 (MSN2011.4.6)

【②人の気持ちを考え（思いやり）、他人に迷惑をかけないを考える例として】

サッカー日本代表前監督アルベルト・ザッケローニの日本選手の評価

◇彼らの物の考え方は、**他人に迷惑をかけない**という所から始まる。練習が終わればシャツやソックスは、自分のバッグに入れ、自分でスパイクを持って移動する。

(Soccer Journal)

◇これほどまでよく働くとは思わなかった。**選手も全員チームのために動く**。イタリアでは考えられない。

(タ刊フジ)

◇アジアカップに優勝して、日本に帰国した時の話だ。空港でキャリーバッグや荷物がベルトコンベアーに運ばれてくると、何人かの選手が自分の荷物だけでなく、**チームの荷物まで台から下ろす**作業をしていた。まるで倉庫の作業員のようなだった。

(スポッ!)

◇学校で基礎を叩き込まれて、**無用なファールを犯すことが少ない**。

(Soccer Journal)

3 日本人論から見た日本人の特性

(1) 全般

日本人論とは、国民性に関して論じたものであり、国民性とは、日本語を共通語として用い、日本という国家に属する国民の大部分に共通する意識や行動傾向に見られる特徴のことをいう。

(2) 風土論・自然観

ア 風土的な類型を、モンスーン、砂漠及び牧場の3つを考え、日本人の国民性は基本的にモンスーン型の風土に適応する“**受容的・忍従的**”とした。また、台風の性格として、思い切りのよいこと、淡白に忘れることは、日本人が美德としたところであり、桜の花に象徴される。その最も顕著な現れ方は、**淡白に生命を捨てる**ということである。

イ 日本の農業労働は草取りを中心とし、暑い時期に繰り返し行う必要があり、**働きづめに働くことを尊重する日本独自の労働観**を生んだとする。また、農耕民族は、定住して自分の土地から収穫を得るのだから、自分の土地さえ侵さなければ、平和共存し得る。

だから、敵味方という概念がはっきりせず、互いに妥協し合うことができる。また、自然はヨーロッパに比し、やさしいものと感じられ、したがって神々は非常に情け深い、愛に満ちた存在として意識された。神々に対して“甘え”の感情をもっている。

ウ ムは閉ざされた社会集団で、そのものが規範としての存在となり、帰属意識、忠誠心は、生まれながらの習性であった。部落運営方式は、概ね伝統的習慣をいかに守るかという観点から行われた。また、部落は秩序に反する者を制裁する一種の司法機能を備えていた。代表的な方法が“村八分”であった。

高度成長時代に典型的にみられた労働者や村八分者の驚くべき企業忠誠心もまたこの集団帰属志向に基づいていたように思われる。農村を離れて企業に就職した労働者の多くは、企業を擬制的なムとして捉えたのではなかろうか。

エ 日本人の自然観の特徴は、自然と人間を極めて密接なものとみなし、“偉大な自然”と“卑小な人”という対比で捉えることであるとする。

災害観を、①天が人間を罰するために災害を起こすという“天譴論”、②自然のもたらす災害と、人間の生や死を避けられない運命と考え、これを甘受する“運命論”、③防災対策を講じて災害を克服するのではなく、人間の精神や心構えを強調する態度の“精神論”の3つのタイプに整理し、調査を行った。

運命論に共感する者は、5～60%であった。

(3) 人間関係

ア 社会集団の構成要因を“資格”（職業、性格等）と“場”（地域、所属機関等）に設定し、日本では“場”が重く見られるとする。その中で“家”の内における人間関係が最も優先される。日本農村も企業も同様に、成員を束縛する度合いが非常に強く、一体感が強要され、家風や社風が醸成され、孤立性が強い。この枠の強固さが溝をつくり、“ウチ”と“ソコ”の差別意識が正面に打ち出される。

集団が大きい場合、構成組織が必要であるが、日本では例え同一集団内の同一資格を有するものであっても年齢や勤続期間等の差で精緻な序列“圩社会”が形成される。これは、歴史のある大企業ほど強い。加えて、“誰だってやればできる”という能力平等観は世界に類を見ない程強く、年功序列へ志向される。

イ “甘え”とは、相手に接近しようと動き、相手の愛情をあてにし、一体化の状態をかもしだす感情とする。“甘え”は、日本語に特有の言葉であり、日本人の精神構造・社会構造を理解するため鍵となる概念という。

甘えの心理が関係するものとして、西洋的思想に比較し、日本的思想は非論理的直感的であること、集団と一体となることで個人としては持ち得ない力を発揮すること及び“圩”関係を重視する原因となっていること等を挙げる。

(4) 伝統的道德律

ア 日本と韓国について、両国とも中国文化の辺境文化であるという点では同一であるが、韓国は中国以上に完全に儒教化し、典型的な模倣文化と規定されている。日本では完全な儒教化は一度も行われず、**東アジア文化圏・儒教圏の異端の国**である。

イ 13世紀以後、中国も韓国も中央集権制の官僚主義の国であった。日本は1232年公布の「貞永式目」すなわち武士の法律が土地への私的な所有権を認められた。武士は、所有権を自ら守り、農民が逃げないように経営し、租税を完全に納付した場合にのみ武士の政府が保証するという、**能力重視の自由社会**であった。（信長、秀吉）

ウ 日本人は怠け者といわれることを非常にいやがる。働いてない人間は悪人、そして働いていれば善人になり、**勤労が絶対的規範**になったとする。アラブでは忙しい人間はだめ人間で、悠々と何もしていないのが立派である。

そして、ちょっと頭のいい人間は中庸を過ぎるからいけない。愚かな者は中庸に至らないからいけない。中庸は徳の至れるもので、**中庸がいいというのが日本では当たり前**の社会であるとする。

※中庸（ちゅうよう）…極端な行き方をせず穏当なこと。片寄らず中正なこと。

(5) 美意識

日本人は自然に対する繊細な感受性をもつ。台風・地震・洪水自然の脅威は絶えない中で、悠久の自然と儚い人生という対比を感じ、無常観が生まれる。すべては変わりゆくというドライな達観が儚く悲しい宿命を共有する人間同士の連帯、弱者へのいたわり、敗者への涙を生みだした。儚く消えゆくものの中に、美的情緒を見出すのは日本人固有の感性という。“もののあわれ”という情緒である。三、四日に命をかけて潔く散っていく桜の花に、人生を投影し、他の花とは格別の美しさを見出している。

日本人は自然に対する畏怖心を持っており、人類幸福のために自然を征服すべきと思っている人はいない。自然には聖なるものを感じ、調和し、共に生きる自然観があり、神道（しんとう）が生まれた。そして、日本人の謙虚さを生んだ。



4 宗教から見た日本人の特性

(1) 全 般

ア 日本人のアイデンティティーは**神道であり、“和”の精神**である。日本人には神道の信仰が頭の中に刷り込まれている。

イ 日本人は、外来のものをそのまま受け入れることはなく、日本風に改変する。象徴的なものは**カレーライス**である。

神道は、善神と邪神の区別はするが、全てが神であり尊重するという立場で、優れたものは何でも神という考え方であり、他の宗教に**寛容**である。民族宗教（神道）と世界宗教（仏教）が完全に融合するというようなことが起こるのは日本だけである。

ウ 神道と仏教は、鎌倉初期にかなり合体していた。江戸時代には、「神仏」という言葉が生まれるように、完全に合体したが、明治では神仏分離令による。

エ 日本の国民性のうちに**利己的な個人主義が比較的少ない**ことは、救いであり、それが、国民をして優勢国に対して自国の独立をよく保つことを得た要因である。このことに対して、日本は**自国の道徳力を創造**し保存した、2つの宗教に感謝してよい。

その一つは、自分の一家のこと、もしくは自分のことを考える前に、まず天皇と国家のことを思うことを国民に教え込んだ、かの神道である。もう一つは、悲しみに打ち勝ち、苦しみを忍び、執着するものを滅却し、憎悪するものの暴挙を、永遠の法則として甘受するように国民を鍛えあげた、かの仏教である。

(2) 神 道

ア 神道が分かりにくいのは、基本的な教義が確立されず、神の定義もあいまいで、具体的にどう信仰すべきかきちんとは決められていないからである。

イ 聖徳太子は、仏教でも儒教でも天皇でもなく **“和”** を第一に挙げた。これが神道であり、“和”とは、協調性を保ち、むやみに争いごとを起こさないことである。

ウ 神道は穢（けが）れを極端に嫌う。“穢れ”は、諸悪の根源であり、精神的な汚れでもある。これを取り除くには、“禊（みそぎ）”や“祓（はら）い”という宗教的儀礼が必要である。“禊”は、きれいな水の中に入り、“祓い”は、櫛（さかき）のような清浄なもので、吹き払う。穢れには、“死の穢れ”があり、これは触れた人間に移っていく。

“怨念”も穢れであるが、これは争いが起こるから、怨念は発生するものであり、ならば最初から争いをしなければいいということで、競争の否定になる。勝った人間がでれば、負けた人間が出る。負けた人が出れば、怨みが生まれる。だから恨みっこなしにするのが一番いいということになる。

エ **国家神道**と前述した本来の神道は別ものである。国家神道は、明治時代に、欧米に対抗するため、非常に強い原理を持つキリスト教に文化的にも対抗するため考えだされたものである。一神教的であり、愛国主義で排他的、独善的になる傾向があった。

日本の神社全てを国家の統制下に置き、国家の機関として神を祭る地位のトップに天皇を据えた。天皇と国民は一体であるという形で、天皇を守ることが日本の文化を守ることであり、国を守ることであり、国民を守ることであった。

戦争で死んだ人たちを、天皇の名、国家の名において祭るべきということで作られたのが靖国神社であり、全国の護国神社の頂点に靖国神社があるという、一種のピラミッドができた。

1945年、国家神道を廃止し政教分離、信教の自由の確立と軍国主義の排除を目的とする、GHQの神道指令（覚書）が出され、国家神道は終焉した。

(3) 仏教

ア 全般

万物流転、諸行無常の大教義を説き、一切の欲念を滅却すべきとする仏教は、日本民族が古来から持っている感情と合致するものであり、長い年月の間に国民性に深い影響を及ぼした。日本人に悟りと慰めとを与え、何事にも屈せずに辛抱するという新しい力を与え、国民の特質である忍従の精神を一層強靱にした。

イ 無常観

執着が苦しみを生むのは、この世のことは全て無常だからである。諸行は無常であることを確実に認識することで悟りを開くというのが教えである。

“永遠なるもの”に美を感じる西洋に対し、日本人は移ろいゆくものに美を感じる傾向がある。「方丈記」では、天災などで人々が、焼けたり、死んだりして、常に変化しているのに、それに囚われることの無意味を説いている。

ウ 輪廻転生

輪廻転生とは、人間というのは、実は死ぬのではなく、生まれ変わるという思想である。生きることは苦しみと考え、輪廻転生の輪から抜け出すことで、永遠の苦しみから逃れるという考えである。

エ 慈 悲

自他怨親のない平等な気持ちを持ち、他者の苦しみを救いたいと願う心である。

オ 禅 宗

禅宗は、座禅を修行し、内観・自省によって心性の本源を悟ろうとするものである。禅は、**武士道との関連が深い**。これは、道徳的には、一度その進路を決定した以上は、振りかえらぬことを教え、哲学的には、生と死とを無差別に取り扱うからである。



【神道】



【仏教】

ま と め

和の精神

武士道

潔 さ

良 心

勤 労

謙虚さ

思いやり

日本の
美 徳

寛 容

品 格

受容的

風 土 伝 統 宗 教

秩 序

忍従的

役割重視

辛抱努力

忠誠心

自己犠牲

